

十四 陸軍教育總監部

昭和四年一月二十一日、陸軍教育總監部で講演することになりました。その時の總監は林銑十郎陸軍中将で、後に総理大臣になられた方です。奈良武次陸軍大将のご紹介で總監にお会いしたのですが、私のお話をどんどんメモしておられたのです。お会いしたのは前年の秋だったと思うのですが、一月二十日講演に来るようにとご通知をいただいたのでした。そのころ京都にいたので上京して講演したのですが、陸軍教育總監部といえば、陸軍の文部省といったようなところで、總監部の人たち大ぜい出席され、林總監もご出席になっていたのです。

林總監は講演が始まる前、「陸軍省に用事があるから途中で失礼する」といわれていたのです。ところが私が講演にかかったところ、二時間二十五分の間お立ちにならないかったです。後は五分間くらいで終わったのですが、それは林總監がメモされた部分だったのでお立ちになったものとおもわれたのです。とにかく陸軍省に用事があるから途中で失礼するといわれていたのに、二時間二十五分もお聞きいただいたので、誠にもつたいなくありがたく思っているのです。その時出席していたある将校が、速記の基本文字は手旗信号にも使えるといわれたのです。それまで手旗信号はみなカタカナでやっていたのですが、速記の基本文字を使えばもつと便利になるというわけでした。